### 校長室の窓から Na.10

平成25年10月1日 尼崎市立武庫東中学校 校長 小 谷 豪 郎

## 突然ですが、出雲大社へ行って楽ました。

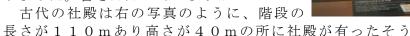
「暑さ寒さも彼岸まで」と昔の人は上手く言ったもので、やっと秋らしい清々しい季節になってきました。そこで先月のお彼岸の3連休に、いつもどおり鳥取へ墓参りに行き、いつもの銭湯に入って、と予定していましたが突然「出雲大社って60年に一度の式年遷宮とかで綺麗になているらしいね」という話から連休を活用して、島根県出雲市まで足を伸ばしてきました。いつも通りの旅館には泊まらないワゴン車生活です。

鳥取からは、3時間半ほどで行けるので意外と楽でした。宍道湖SAで休憩がてら夕日を眺めながらのんびりと夕食タイム、一休みしてから



出雲大社の一番近くの「道の駅」へ移動し ここで1泊。同じような考えで駐車場には キャンピングカーやワゴン車など多数停ま っていました。

翌朝は早朝6時から行動開始、駐車場の目の前のコンビニへ買い出しに行き、朝食・洗面・更衣を済ませ、いざ出雲大社へ門前町を歩いて大鳥居をくぐり式年遷宮で真新しくなった社殿へと向かいました。社殿の足下に左の写真の〇が三つ束ねた印がありました。皆さん知っていますか?



です、それを支えていた柱の遺跡が出土しその大きさが左の写真、1本が直径 1 3 0 cm の大木を 3本まとめた柱 9本で支えられていたそうです。大きな工具もないこの時代に素晴らしい建築技術を持ち合わせていたものだと感心しました。

昨年来、姫路城の改修工事、奈良の正倉院の改修工事、そして出雲大社の式年遷宮等々歴史に触れる突然の「ぶらり旅」に出かけています。と言うことで次は、同じように「式年遷宮」こちらは20年に一度らしいですが、次のぶらり旅は「お伊勢さん参り」になりそうです。 追加:出雲ドームの健康温泉にも入ってきました。

## 市内全体数型研究会:10月2日(水)

年に1度、市内19校の中学校の全ての先生が、各自の専門教科の研修会に一堂に会し先生方の授業力の向上のための勉強会が持たれます。当日は、全ての中学校で午後にいずれかの教科の研究授業が開催されるので部活動も中止になります。

本校では、2年3組の体育を杉谷先生と西岡先生が、2年6組の技術を前田先生がそれぞれ市内の代表としてモデル授業を実施します。それ以外のクラスは一斉下校となります。各学年で課題が出ますので午後はしっかりと自宅学習に取り組んでください。





# 7年生宿泊学習が終わる:9月25・26日

台風がちょっと心配されましたが、1年生の宿泊学習が無事終了いたしました。

出発の25日の朝は、雲一つ無い素晴らしい秋晴れのもと早朝の運動場に1年生が集合し総務委員の指導で出発式が行われました。217名全員参加を目指していましたが、風邪や怪我などで残念ながら各クラス1~2名の欠席者がいました。はじめに今回の宿泊学習に対する思い、スローガンなどを4組の富谷君が力強く話してくれました。そして、6組の飛田君がお世話になる写真屋さんの紹介を兼ね



てお礼の言葉を述べ、今から始まる宿泊学習に向けて期待感が高まってきました。

最後に西岡先生が、今日までの準備で各専門委員がいかに努力してきたかを紹介しながら、前日の荷物点検で忘れ物があり取りに帰った者の中に風紀違反者がいたこと、当日の朝に遅刻が多いこと等、宿泊学習を楽しみにしているのはよいけれど、「浮かれた気分では困る」ということでお説教があり皆に気合いが注入されたようでした。

沢山の先生方に見送られてバスは、神鍋高原へと向かって出発していきました。



1日目、到着後のオリエンテーリングは順調に終了したのですが、 メインイベントのキャンプファイヤーは、あいにくの雨のため中止に なり館内でのキャンドルサービスに変更になりました。

2日目、しっかりとよく寝て目を覚ますと小雨も上がり、予定通りに目覚めのラジオ体操から始まり、クラスの協力が試される飯盒炊さんへと計画通りに進んでいき、予定通りに全行程を終え学校へ到着後

再び総務委員が中心になって解散式が行われました。

出発式に始まり最後の解散式まで、役割分担した各係り・委員が最後まできびきびと、 自覚と責任を持って生徒達の手で行われたのが大変良かったと思います。来年のトライ やるウィーク、3年生での修学旅行などにも自分たちで計画し、自分たちで自覚と責任 を持って実行できる、そんな学年に成長していってください。お疲れ様でした。

### 今月の主な行事

2日 市内全体教科研究会 7日·8日 中間考査

18日 平成26年度兵庫県公立高等学校入学者選抜要項説明会

19日 尼崎市立総合体育大会 23日 合唱コンクール

25日 文化発表会

#### 〈今月のことば〉 『信は力なり』

自分の生きてきたこと、やってきたことを信じるためには、 常にベストを尽くす自分でいなければならない。 これは、個人でも団体でも同じ、皆がそうすることによって 運も含めて必ず結果がついて来る。